

苦しかったときの話をしてしょうか



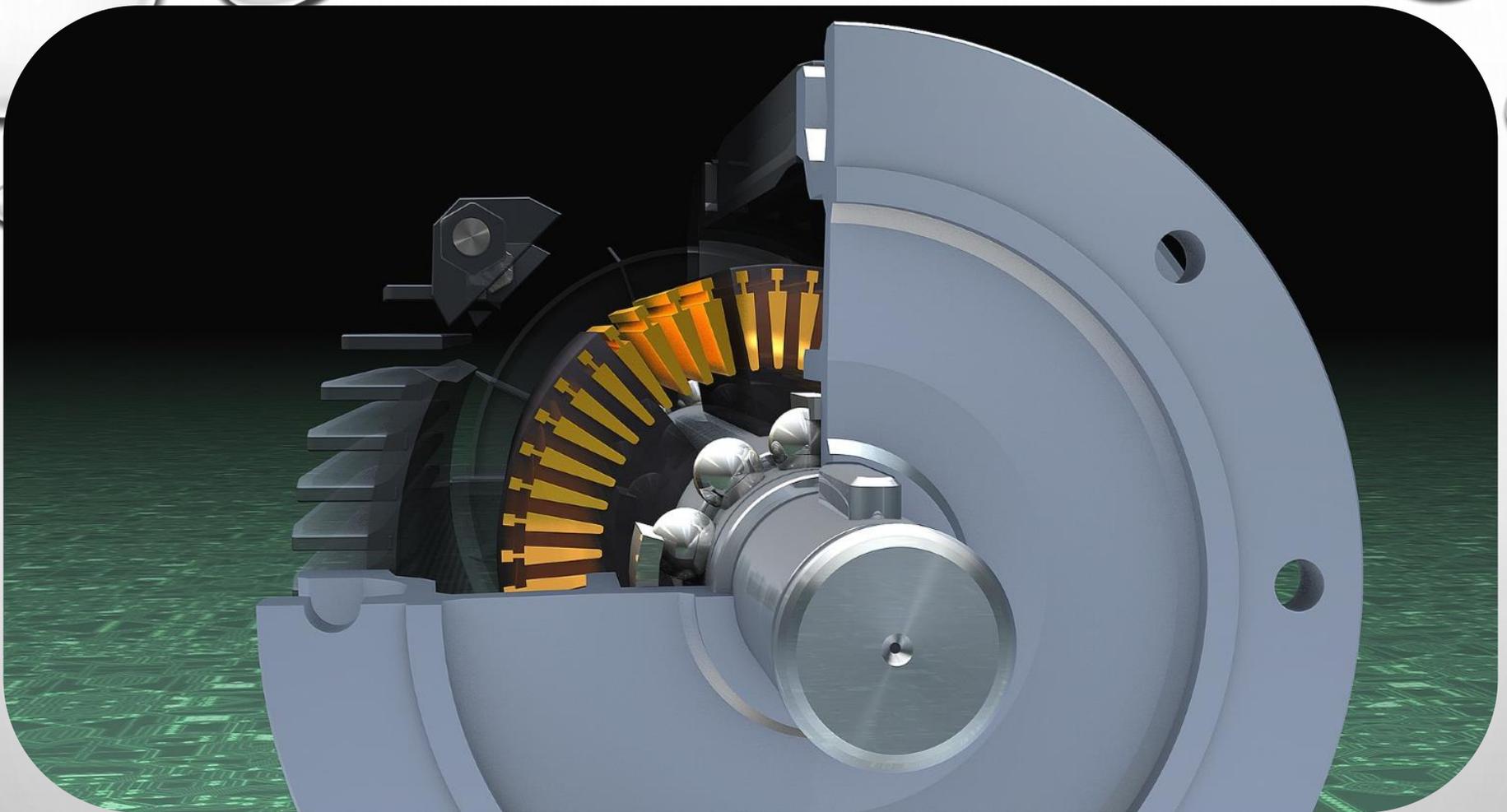
この世界は残酷だ。

しかし、それでも君は確かに自分で選ぶことができる

人生はワクワクドキドキ痺れるような達成感や

叫びたいような興奮につつまれることが何度も何度もある

その興奮と感動がやりがいであり人はそれを味わうために生まれてきたのではないか



自分の中に基準となる軸がなければ
やりたいことが生まれるはずも選べるはずもない

自分の中に選ぶ軸がないならばどの選択をしようが自由だし全てが正解である
その場合は悩むことをさっさと辞めてあみだくじで進路を決めてしまえば良い



成功は必ず人の強みによって生み出されるのであって
決して弱みからは生まれない

同じ特徴が宝物になるか弱点になるかを決めているのは文脈である
キャリア戦略とはその人の目的達成のためにその人が持っている特徴を認識して
その特徴が強みに変わる文脈を探して泳いでいくその勝ち筋を考えるということである
宝探しのルールは外との比較ではなく自分の内側の凹凸比較である



会社と結婚するな、職能を結婚せよ。

就職活動ではなく、就社活動をしていないか？

職能をまず見極めないといけない。

いくら会社に惚れ込んでも、会社とは利害関係で存在する。

スキルこそが相対的にもっとも維持可能な個人資産である。

職能は時代に合わせたアップデートを怠らなければもっとも永続性高く頼りになる武器になる。

<https://coredou.com/>



会社がちゃんと続いて自分の職が守られ続けられればいいが
その人生は自分にとって魅力的か？

会社の看板がないと仕事ができない人や
会社の外で通用するスキルを身につけずに便利に使われている人が溢れている。
スキルを身につけるということは、主導権を自分に移すこと。



大丈夫、不正解以外はすべて正解

不正解とは、自分にとって決定的に向いていない仕事に就いてしまう事

「自分の特徴が裏目にでる」

「自分にとって情熱がどうしても湧いてこない仕事」

たいてい連鎖して起きる

学校では教えてくれない
世界の秘密



そもそも人間は平等ではない

身体的能力よりの差異よりも大きな格差を生むのが知力の違いである。

人間が知力を使えば飛行機でも自動車でも創り出せるように限界知らずの可能性を持っている。

だからこそ、知力の違いによるインパクトは大きい

経済格差は、原因ではなく、知力の格差がもたらした結果に過ぎない。



自分のユニークな特徴さえ認識できれば、
ひとりひとりが特別な価値を生む可能性がある。

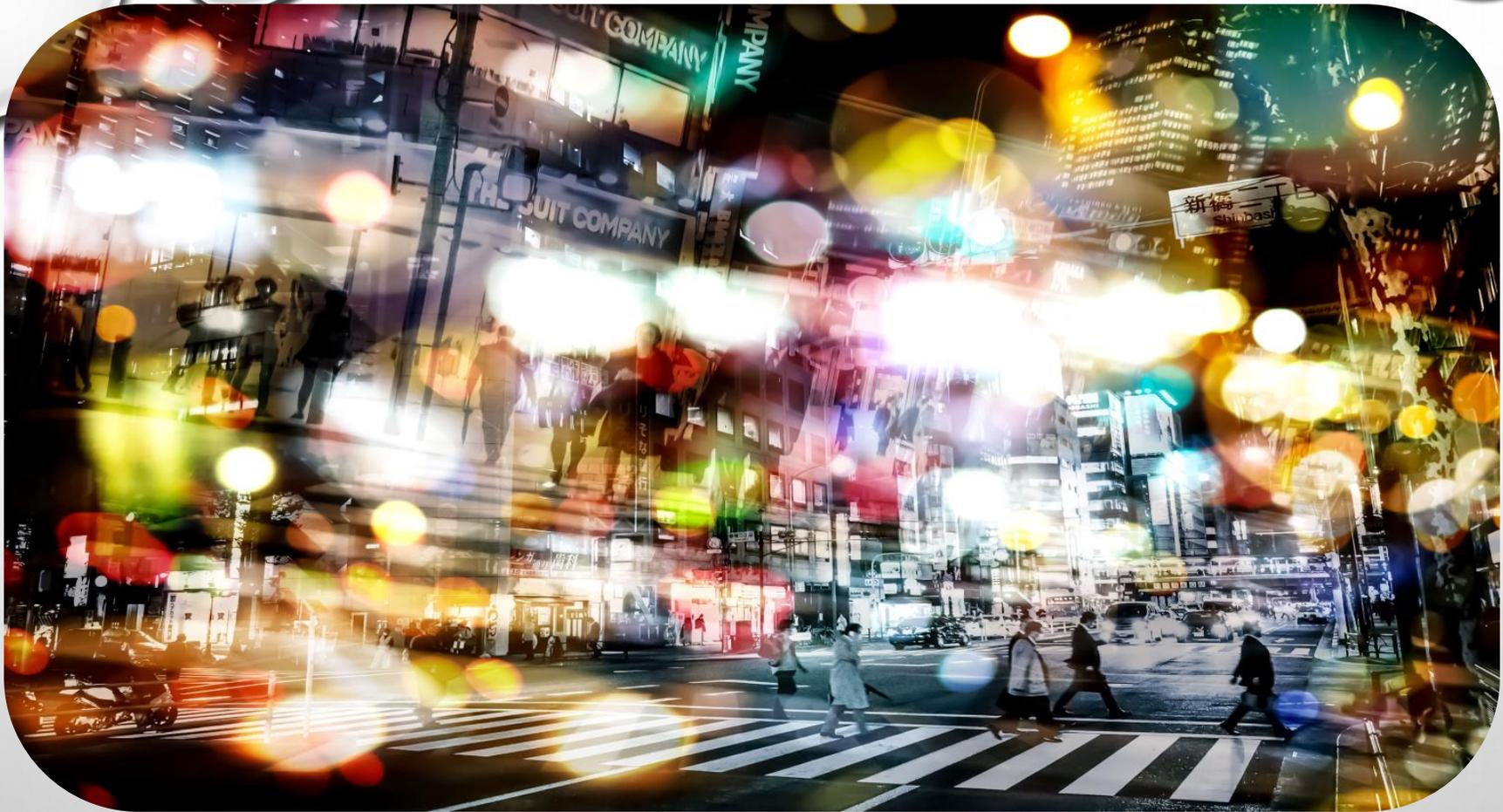
最初から平等なんてあるわけがない。自分のオリジナルスペックは決まっている。
自分がコントロールできる変数は①己の特徴の理解②それを磨く努力③環境の選択
自分の持って生まれたものを最大限活かす。



どんな物事にも必ず本質がある

「本質⇒構造⇒現象」の順に上位が下位を拘束している。

現象にとらわれずに、構造を診る力、それらの構造から本質を見抜く力を養わなければならない。



資本主義の本質は人間の欲をエネルギー源にして、
人々を競争させることで社会を発展させる構造を持つ。

競争の結果、に対しては勝利者に報いて、敗者が最低ラインまで落ちることを良しとする
最低ラインとは教育を受ける権利、基本的人権、法の下での平等、選挙権や参政権、生活保護など。



資本主義においては2種類の間がある。
自分の24時間を使って稼ぐ人：サラリーマン
他人の24時間を使って稼ぐ人：資本家

資本家のためにルールがつけられた社会。サラリーマンを働かせて、資本家が設ける構造。

資本主義とは、無知であることと、愚かであることに罰金を科す社会のことである。

日本の教育システムも、大量のサラリーマン(労働者)を生産するように作られている。



いまの資本家のほうが、基本的人権のせいで
人件費を多く払わされているだけである。

かつて労働者を奴隷のように扱っていた時代があるが、
その時代に資本家が大量の奴隷を使って儲けている構造と、
今の資本家が大量のサラリーマンを使って儲けている構造は本質的には大きく変わらない。



資本家の世界を射程圏に見据える パースペクティブを持っているか

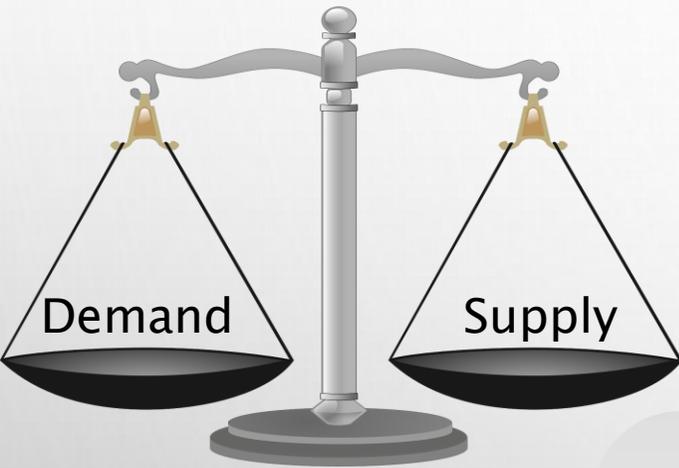
汗水垂らして働いたサラリーマンの所得にかかる最高税率は5割を超えるが
資本家の株式配当に対しては税は2割しかかからない。

資本家として成功すれば桁違いのリターンがある。
その資本家の世界は自分とはかけ離れた別世界ではない。

君の年収を決める法則

人の年収は職業を決めた瞬間にほぼ自動的に決まってしまう。

- ①職能の価値(職能(スキル)に対する需要と供給)
- ②所属する「業界の構造」
- ③成功度合による違い(どれだけ重要で代替不可能な能力を有しているか)



持たない人が、持てるようになるには？



資本主義を動かしているのは、人間の欲である。欲の強さは正義である。



資産をもって生まれていない人間が巨大な資産を手に入れる方法。資本家に成り上がるのがベスト。

資本家になるもっとも簡単な方法



上場されている株式を買う
(その会社のオーナーになる)



成功報酬として企業の株を
個人としてもつ

＜創業家型＞

起業して、起業した会社を売却することを繰り返す

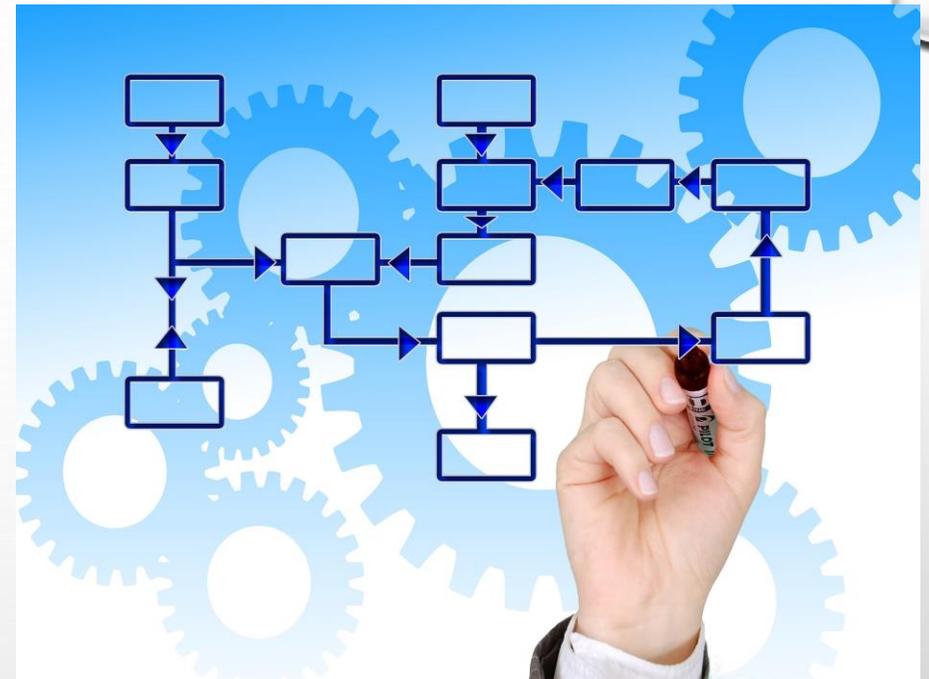
＜経営改善型＞

業績が悪化した会社や企業価値をあげたい会社の株やストックオプションをもらい、経営改善に参画し、業績向上後に株を売却して成功報酬を得る。

会社の将来性を見極めるコツ



持続可能な
「需要」の有無を診る



持続可能な
「構造」の有無を診る

上場企業であれば有価証券報告書を観ればたいいのことはわかる。
どうしても足りない情報は、知性を使ってリーズナブルそうな「想定値」を当てはめて考える

持続可能な「需要」の有無を診る

その会社の売上を支えている市場の需要が、
○ どれだけ将来にわたって安定してあり続けるのか？
5年後、10年後、20年後、30年後というスパンで自分なりに推理してみる

人口動態の変遷による
需要の変化を追う

その会社がいま稼いで
いる基幹技術に対する
代替技術の出現可能
性を視野に入れる

消費者はより便利でよ
り快適なものに移行し
ていく

市場の需要は、大きな目で見ると
必ず消費者のプレファレンス(相対的な好意度)に従う。

自動運転の例

例えば自動運転だと、いくら古い価値観のままの人間が運転する楽しさを強調しても、経産省ががちがちの規制で移行を遅らせようとしても、世界の自動車産業は消費者が求める方向へ動かざるを得ない。

自動運転技術に関しては、グーグル陣営に比べてトヨタは3周くらい遅れている感が否めない。

この分野は遅れた時間を取り戻すのは簡単ではない。競合たちは新時代にもものを言うデータの蓄積でずいぶん前を走っている。

自動車会社の成功が、未来への投資判断を遅らせた感が否めない。

そもそも自動車好きが集まってくるからこういうことになる。

多くの会社が自覚なく過渡に技術偏重で、古い技術への愛着や現在の自社の都合にこだわって、

消費者視点ならみえたはずの新しい時代への乗り遅れが起こる。

日本経済の屋台骨を支えるトヨタにはぜひとも新時代のみならず、更にその先の時代も見据えて消費者視点で奮起してくれることを願っている。まだいくつもやりようはあると思う。

持続可能な「構造」の有無を診る

シェアを維持するのに有効な様々な構造を持っている企業は中長期で安定する

特許権商標権著作権などの知的財産

競合が参入するのに巨額な資金力や設備投資のリスク

法律による規制

特定の人脈

原材料の河川

流通の支配力

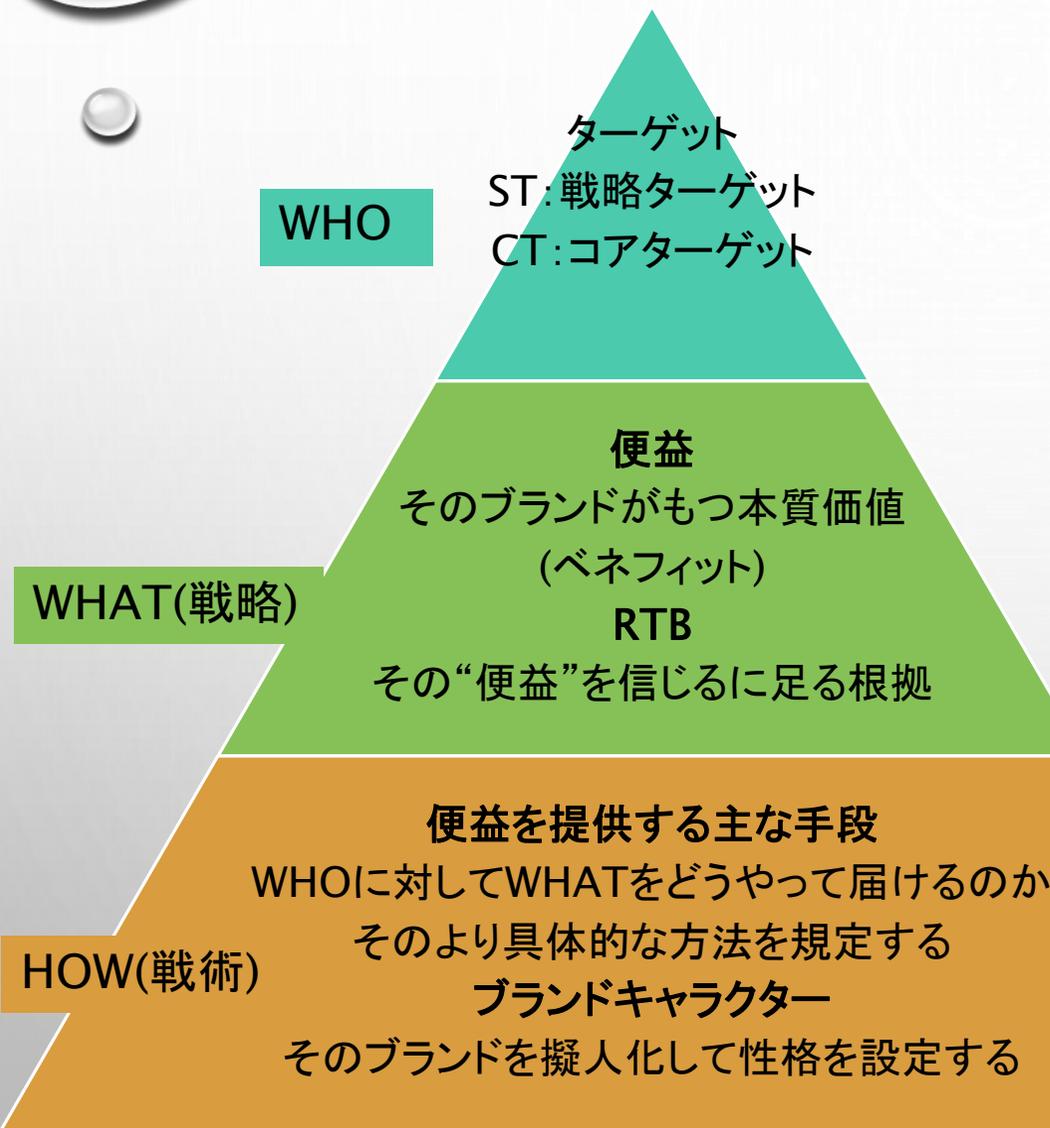
東京ディズニーランドの例

ディズニーランドに匹敵するようなブランドが関東圏に出現する可能性は極めて小さい。ディズニーのブランドを使った競合の同商圏内での出店は契約で封じられているはず。またディズニーリゾート程の規模を持った直接投資を行える競合出現の可能性も小さい。将来も安定している可能性が高い。

ディズニーの構造を破壊するシナリオも考えてみる。

- ①ディズニーランドが壊滅的なネガティブイメージに染まる場合
 - ②知財の期限が切れて延長されず誰でもミッキーマウスを使えるようになって類似パークが近所にできるようになる場合
 - ③ディズニーを超える人気を誇るブランドが巨額資本を通して近所に建設されることになる場合
- 以上のことを考えたが、実現する可能性は低いと考えられる。

自分をマーケティングするブランド・エクイティ・ピラミッド



ST ブランドが選ばれる確率を高めるために経営資源を少しでも投下する広いくくり

CT STのなかで集中して予算を投下する狭いくくり

WHAT ブランドを買う本質的な理由
(本質的な価値)
消費者は情緒的に意思決定しており、WHATは見えないことがほとんど

RTB Reason To Believe
便益を感じさせる根拠となるエビデンスを定義